

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|------------------|------------|--------|-----------|
| ○事業所名 | 放課後等デイサービスあおらういず | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和8年1月22日 | | ～ | 令和8年2月13日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 41名 (33世帯) | (回答者数) | 32 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和8年2月1日 | | ～ | 令和8年2月15日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 6 | (回答者数) | 6 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年3月20日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 個別性の高い支援の質(専門性) | 児童一人ひとりに対して丁寧なアセスメントを行い、個別支援計画に基づいた支援を実施しています。 また、職員間での情報共有やモニタリングを定期的に行い、支援内容の見直し・改善を継続しています。 さらに、法人内研修を積極的に実施し、職員の専門性向上に努めています。 | 今後は、より客観的で質の高い支援につなげるため、標準化されたアセスメントツールの活用や記録の精度向上に取り組んでいきます。 また、支援に関わる全職員が計画作成や振り返りに関わる体制を強化し、チーム全体で支援の質を高めていきます。 加えて、外部研修や専門職との連携を積極的に取り入れ、専門性のさらなる向上を図っていきます。 |
| 2 | 保護者との信頼関係・連携の強さ | 送迎時のやり取りや連絡ツールを活用し、日々の様子を丁寧に共有しています。 また、面談や相談の機会を適宜設け、保護者の不安や悩み寄り添った支援を行っています。 保護者の意向を支援計画に反映し、共通理解のもとで支援を進めることを大切にしています。 | 保護者との連携をさらに深めるため、定期的な保護者会や研修会の実施を検討し、家庭支援の充実を図っていきます。 また、ICT(SNS・連絡ツール等)を活用した情報発信の強化により、より分かりやすくタイムリーな情報共有を行っています。 保護者同士の交流の機会についても内容や開催方法を工夫し、参加しやすい環境づくりを進めています。 |
| 3 | 安心して通所できる環境づくり | 児童が安心して過ごせるよう、環境整備や職員の関わり方を工夫しています。 活動内容についても固定化しないよう工夫し、楽しみながら成長できる支援を行っています。 また、安全管理や事故防止の体制を整え、安心して通所できる環境づくりに努めています。 | 児童がより安心して過ごせる環境を目指し、個別対応スペースの確保や環境構造化の工夫を進めていきます。 また、安全対策については、各種マニュアルの周知や避難訓練の実施内容を保護者にも分かりやすく伝えていきます。 さらに、地域との交流や外部活動の機会を増やし、社会とのつながりを意識した支援環境の充実を図っていきます。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 環境・体制面(スペース・人員の柔軟性) | 利用児童の特性の多様化により、個別対応や1対1支援が必要な場面が増えている一方で、現行のスペースや職員配置では柔軟な対応に限界が生じる場面がある。 また、時間帯や利用状況によって支援ニーズが集中するため、一時的に人員や空間に余裕がなくなることが課題の要因となっている。 | 利用児童の特性や支援ニーズに応じた柔軟な対応ができるよう、活動内容や時間帯に応じた空間の使い分けやゾーニングの工夫を行います。 また、職員配置については、利用状況を踏まえたシフト調整や役割分担の明確化を進め、個別対応が必要な場面でも安定した支援が行える体制を整備していきます。さらに、個別対応スペースの確保や環境設定の見直しについても継続的に検討していきます。 |
| 2 | 連携・外部交流の不足 | 日々の支援業務を優先する中で、関係機関との調整や地域交流の企画・実施に十分な時間を確保できていない。 また、連携の必要性は認識しているものの、具体的な仕組みや担当の明確化が不十分であり、継続的な連携体制の構築に至っていないことが要因となっている。 | 関係機関との連携を強化するため、定期的な情報共有の機会(担当者会議・情報交換)を意識的に設定していきます。また、学校・相談支援事業所・医療機関等との連携においては、担当職員を明確化し、継続的な関係づくりを行っています。 地域との関わりについては、児童館や地域行事への参加、外部交流活動の導入等を通して、段階的に交流機会の拡充を図っていきます。 |
| 3 | 情報共有・周知の不足(安全・家族支援) | 各種マニュアルや安全計画は整備されているものの、保護者への周知方法が書面中心となっており、内容が十分に伝わりきっていない。 また、家族支援(研修・交流機会等)についても、実施頻度や参加しやすい工夫が十分ではなく、結果として活用機会が限られていることが要因となっている。 | 保護者への周知方法を見直し、各種マニュアルや安全計画について、書面だけでなく口頭説明や資料の工夫により、分かりやすく伝える取り組みを行います。また、ICT(連絡ツール・SNS等)を活用し、タイムリーな情報発信を強化していきます。 家族支援については、保護者会や研修の開催方法を工夫し、参加しやすい時間設定や内容の充実を図ることで、家庭と連携した支援の強化につなげていきます。 |